

令和7（2025）年度 第2回子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和7（2025）年10月24日（金） 13：30～15：00
- 会 場 元気館1階 きりんルーム
- 出席委員 植木会長、野中副会長、遠藤委員、村井委員、関沢委員、根立委員、上杉委員
田村委員、霜田委員、品田委員、南委員、田中委員 【12人】
- 欠席委員 平田委員、金子委員 【2人】
- 事務局 中村子ども未来部長
（子育て支援課）村山課長、荒木課長代理、田邊係長、山崎主任
（保育課）笹川課長、細山課長代理
（子どもの発達支援課）小林課長、小山課長代理
（福祉課）元井課長 【10人】

1 開会

2 挨拶 会長

3 議事 議長：会長

柏崎市こども・若者計画案について

「柏崎市こども・若者計画（案）」について事務局が説明

会 長

計画案 37 ページ（1）複合的な課題を有するこども・若者への重層的支援の充実についてですが、具体的にはどのような支援を行うのでしょうか。

事務局

ここで用いている重層的支援は「重層的支援体制整備事業」のことではなく、もう少し広い概念として使わせていただいております。関係機関がしっかりと手を結んで、必要な支援を届けていく機関連携を重層的支援として掲げております。

会 長

計画案 33 ページの表内No.3「大学との連携・協働事業」についてですが、具体的にはどのような取組でしょうか。

事務局

連携の一つとして学生募集の支援が挙げられます。現在、新潟工科大学及び新潟産業大学においては、定員を充足していない状況が続いています。定員を満たすことで、多くの若者が柏崎に集まり、卒業後の定住も期待できることから、市としても必要性を感じております。

委 員

子どもたちに大人になっても柏崎に住み続けたいと思ってもらうために大切なことは、柏崎が好きかどうかだと思います。子どもたちの成長とともに地域活動に参加することが少なくなってきていると思いますので、子どもたちの力をより活用して、子どもたち自身が地域を好きになれるよう支援を行っていただきたいと思います。

計画案 36 ページの基本目標 3「困難な課題を有するこども・若者やその家族への支援」ですが、障がいのある子どもを取りまく周囲にも「いろいろな事情を抱えている人がいる」という理解を深められる教育をしっかりと行っていただきたいです。

事務局

障がいに対する理解教育については、学校教育課と協議をしながら充実を図っていきたいと思います。

委員

若者の意識に関するアンケート調査 12 ページ問 11 で「子どもを持ちたいと思わない」と回答した方のうち最も多い理由が「自分には子どもを育てられないと思う」でした。

子どもを産み育ててもいいと思ってもらうために、幼い時から色々な世代の方と触れ合う機会が重要だと感じています。また、こども・若者ヒアリング調査の中で、ひきこもり状況にある若者も「買い物に行きたい」「皆で過ごせる場所があるといい」等の意見があります。市内でも安心して過ごせる食堂やカフェなどが増えると良いと思いました。

事務局

市民活動支援課や文化・生涯学習課などとも連携して支援を強めてまいりたいと思います。

委員

こども・若者計画の基本目標を掲げるに当たって関連する事業がいろいろありますが、全部実施するのか、あるいは関連性があるものを抜粋して実施するのでしょうか。

事務局

こども・若者計画の骨子に沿った関係の深い事業を関係課に選定していただいているので、計画の理念に沿った関連性のある事業が挙がっています。

委員

今は核家族が増えてきて、小中高生は小さいお子さんに触れ合う機会が少ないと思うので、子育てって楽しいと思えるような事業があっても良いと思います。

また、基本目標 3 の「困難な課題を有するこども・若者やその家族への支援」について最近、在学する学校とは別にフリースクールを利用するお子さんが増えているようですが、金銭的に厳しいといったことも聞きますので、その辺りも念頭に置きながら事業を進めて行っていただきたいです。

事務局

子育てが楽しいと思える取組というところで、一つは多世代の交流の場をもう少し積極的に仕掛けていく必要があると思います。

フリースクールに関しては、学費の経済支援を求める意見が市の方にも届いています。他市では民間のフリースクールに通う学費の一部補助を行っていることも承知しておりますが、今後、他市の状況や動向を把握が必要と考えます。

委員

計画案 30 ページの表内№3 の「子どもの屋内遊び場施設運営委託事業」についてです。キッズマジックは市営化したと認識していますが、その運営について新たに業務委託するということでしょうか。

また、同表内4の「子どもの遊び場施設整備補助金」については、補助額には上限があると思いますが、町内会から依頼があった案件に対して全て補助するものでしょうか。

事務局

キッズマジックはリニューアル前の令和6(2024)年4月から市営化しており、当時から運營業務を委託しております。リニューアル後もその形態は変わっておりません。

次に子どもの遊び場施設整備補助金ですが、町内会で管理をしている児童公園等の遊具の更新や撤去などについて、内容を精査しながら、予算の範囲内での支援をしております。

委員

若い世代の離婚も増加してきています。女性のキャリアアップのためにも、職場でのワーク・ライフ・バランスを重視して、子育てをしているときは、業務量を少し減らすなどの配慮が必要だと考えます。

事務局

ワーク・ライフ・バランスの向上は、子育て支援部局だけで取り組めないと思っています。子育てのために気軽に休暇が取れるような職場の理解の醸成は、社会全体で進めていく必要があるものと考えます。

委員

小学校で私が担任をした子どもたちの多くは、市外、県外で就職、生活しています。それは御両親が子どもたちをしっかりと育ててくださったことによって、子どもたちが自信を持って外の世界に繰り出だしているのだと思います。

委員

基本目標2の施策の方向性(1)若者の就労支援・働きやすい環境づくりの推進というところで、ワーク・ライフ・バランスの実現に対する主な関連事業のセミナー開催の充実や、アプローチの強化は実際に行政が実施するというよりは、企業が中心になって実施するものと考えます。そのマッチングの方法として、例えば大学等との連携で、学生にアンケートをとり、企業で仕事をするようなイメージを持ってもらい、企業側の悩み事も含めた上でうまくマッチングすると就労に結びつくのではないかと思います。

また、子育ての部分で、例えばキッズマジックですが、対象年齢を過ぎた後も小中学生等が交流を持てるように、もう少し世代を広げた遊び場としても良いと思いました。

委員

基本理念の「すべてのこども・若者が尊重され、安心して住み続けたいと思えるまち・柏崎」ですが、Uターンのように柏崎に戻って来てもらえるようなまちというイメージがあっても良いと思いました。

次に、若い世代においてスマホ等によるトラブルが増えているなかで、SNSに関する教育をより早い段階で実施して理解を深めた方が良いと思いました。

また、ここ数年フォンジェの経営が赤字となっていますが、入場者が多いキッズマジックを上手く活用して経営を見直していくことが必要だと思います。

最後に、「若者の意識に関するアンケート調査」で、問11「子どもを持ちたいと思わない理由」が男性は経済的な不安が多いのに対し、女性は育児への不安という感情的な部分が多いという結果で意見が分かれています。その辺りも含めて子育て支援の発展に繋げていって欲しいです。

事務局

基本理念について「住み続けたい」「住みたい」というイメージを精査させていただきます。

委員

主な関連事業の中の「大学との連携・協働事業」ですが、企業が大学を支援する方法は多岐に渡ってありますが、自分の在学している大学も企業からいろいろな支援を受けていることを知りました。

委員

自分が子育てをしている時代はこのような経済的支援もなかったし、今の保護者は本当に恵まれていると思いました。ただ、経済的支援の事業も大事ですが、保護者や子どもの心の手助けとなるような事業も増えてほしいと思いました。

また、若者が「やっぱり柏崎に戻ってきたい」と思えるような事業を増やしていただきたいと思います。

4 報告事項（事務局）

- (1) 屋内遊び場施設「キッズマジック」の利用状況について
- (2) 5歳児健診の受診状況について
- (3) 乳児等通園支援制度（こども誰でも通園制度）の利用状況について
- (4) 児童クラブにおける新規取組の実施について
- (5) 児童クラブ使用料の改定について
- (6) 保育園給食費の改定について

5 閉会挨拶 子ども未来部長